

スポーツ用義肢とパラリンピック

障がいのある人ほどスポーツを

●義肢を製作しつつ、アスリートを育成

35年間にわたり病院出張、地方への補装具巡回相談（茨城県、静岡県）の義肢製作を担当し、多くの若年者や高齢者を担当。またスポーツ用義肢考案と製作のみでなく、ボランティア活動として利用者へのランニング動作指導と切断者スポーツ選手の育成を目的としたクラブ活動「スタートライン Tokyo」を主催することで、パラリンピック選手を多数輩出した。2000 シドニー大会から 2016 リオ大会まで 5 大会にメカニックとして選手団に帯同している。

クラブメンバーは義肢ユーザーを主体にリハ医、理学療法士、体育指導員、若手義肢装具士などのサポーターで構成され、220名を超えている。定期練習は初歩的なランニング動作指導と義肢調整を基本におき、無理のない誰にでも参加できることをモットーとしており、体力、心肺機能、免疫力、義肢操作能力、自立性、協調性の向上を目指している。

●選手育成のため公費支援を望む

日本全国にはおよそ7万人の義肢ユーザーが存在する。日本義肢装具学会などと連携してスポーツに親しむイベント、セミナーを各地で開催することが望まれる。

現状ではスポーツ専用義肢は本人負担であり、今まで弊社の研究基金やトップアスリートからのおさがり部品などで支援してきた経緯がある。今後、継続的な若年時からの選手育成と強化練習の促進を考えると、公費支給（障害者総合支援法、児童福祉法や労働災害法）や日本障害者スポーツ協会からのスポーツ用補装具の支援が望まれる。

（例）義務教育段階で小中学生がスポーツ参加に必要な車イス、補装具について公費支援。



スタートラインの小中学生たち



ランニング指導風景



頑張るぞ！

プロフィール



臼井 二美男

公益財団法人鉄道弘済会 義肢装具サポートセンター 研究室長 義肢装具士
群馬県立前橋市出身。1955年生まれ64歳。

義足製作のかたわらスポーツ用義足の研究と選手育成に取り組み、陸上、自転車、トライアスロン選手を輩出。アテネ、北京、ロンドン、リオパラリンピック日本選手団メカニック。切断者スポーツクラブ「スタートライン Tokyo」代表。